

# 令和5年度全国学力・学習状況調査 朝来市小学6年生と中学3年生の 学力と学習状況の分析結果



令和5年4月18日（火）実施

## 調査の概要

「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、これらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること、また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることが目的です。

今年度は、中学校において1人1台タブレット端末を活用して、英語科の「話すこと」調査がオンラインで実施されました。

この調査によって測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面となります。さらに、テストではなく、調査と銘打たれていることから、正答率の高さではなく、考え方が定着しているかどうかを確認するためのものであると言えます。そして、出題構成は、学習指導要領がめざす授業づくりを示す形になっています。

## 調査内容（教科）

国語、算数・数学、英語（中学校）

## 調査結果の分析

### 小学生

国語

全国・県平均と同程度

算数

全国・県平均をやや下回る

### 中学生

国語

全国・県平均をやや下回る

数学

全国・県平均をやや下回る

英語

全国・県平均をやや下回る



## 小学校各教科の結果

国語

全国・県平均と同程度

### 定着傾向がみられる資質・能力

- 1 日常よく使われる敬語を理解できています。
- 2 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したものを選択することができています。

### 課題があると考えられる資質・能力

- 1 図形やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書くことといった情報の扱い方に関する事項に課題があります。（小・中学校共通の課題）
- 2 目的や意図に応じ、比較しながら自分の考えをまとめて書くことに課題がありません。
- 3 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめて書くことに課題があります。問題②④

3については、文章を読んで分かったことについては、書くことができていますが、分かったことを基に、これから自分ができそうなことを書いていないという誤答が多く見られました。

### 小学校（国語）総括

昨年度に引き続き、敬語の使い方については、定着していると考えられます。

しかし、「書くこと」については、無回答率も高く、児童が苦手意識を持っていることがうかがえます。「書くこと」は自分の考えをまとめるための非常に有効な学習活動であることから、学校教育活動において、児童のつまずきに応じた学習指導を実現していきます。

そのために、全国学力・学習状況調査における解答類型を活用して一人一人のつまずきに応じた指導を行うことで、朝来市が推進する「授業づくりのユニバーサルデザイン化」を実現していきます。



## 定着傾向がみられる資質・能力

- 1 四則計算を正しく理解することができます。問題①(4)
- 2 比例の関係について正しく理解することができます。

1については、3年生の時に習った問題であることから、正答率は高いですが、過年度に出題された計算が煩雑だと思われる $52 \times 41$ よりも今年度の $50 \times 40$ の正答率が低いということが課題であると考えられます。

これは、数のまとまりに着目し、数の概念を理解するというところに課題があることの表われだと考えられます。

## 課題があると考えられる資質・能力

- 1 答えが1つではなくいくつかある問題に対応しきれていない現状が見られます。
- 2 見出したことを言葉と数を用いて記述することに課題があります。
- 3 表やグラフから条件に合うものを読み取ることに課題があります。
- 4 図形の意味や性質について正しく理解することに課題があります。

(小・中学校共通の課題)

## 小学校（算数）総括

国語同様、「書くこと」に課題が見られます。基本的な計算は定着していることから、授業の中で、当たり前と思っていることをあえて他者に伝える場面設定をすることで、「概念」についての理解を深めていきます。また、表やグラフについて、自分の考えを1人1台タブレット端末やノートに記述してから、グループで協議し、より良い表現につなげる場面を設定していく授業づくりを行います。

そして、日常生活や社会の事象をもとに、図形の意味や性質について、思考する学習活動を推進していきます。



## 中学校各教科の結果

### 国語

全国・県平均をやや下回る

#### 定着傾向がみられる資質・能力

- 1 目的や場面に応じて質問する内容を検討することができます。
- 2 事象や行為、心情を表す語句について理解することができます。

#### 課題があると考えられる資質・能力

- 1 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして書くことに課題があります。
- 2 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題があります。
- 3 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり、深めたりすることに課題があります。問題②④

3については、本文から必要な情報を抜き出すことはできていますが、読書に関する自分の経験や知識に触れていない誤答が多く見られました。これは、自分の知識を広げたり深めたりするような読書経験ができていないことに起因すると考えられます。

#### 中学校（国語）総括

「根拠を明確にして書く」は、継続的な課題として挙がっていますが、改善には至っていないのが現状です。

改善に向け、書く場面を多く設定した授業づくりも行われていますが、残念ながら正答率の向上にはつながっていません。今後は、「書くこと」を中心に、ICT機器も活用しながら、意見のやりとり・交流を学習活動の中心に位置づけた授業づくりを推進していきます。

また、学校において読書の意義や効用について「知ること」「気付くこと」「理解すること」「生かすこと」を意識した授業づくりを国語科中心に行っていこうと考えています。なお、本市では今年度と来年度、朝来中学校が兵庫県の研究指定を受けて読書活動の充実に向けた取組を行っていますので、研究の成果等を市内で共有、活用していきます。

## 定着傾向がみられる資質・能力

- 1 基礎的・基本的な計算技能は身に付いていると考えられます。
- 2 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができます。

## 課題があると考えられる資質・能力

- 1 ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題があります。
- 2 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。問題5
- 3 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。
- 4 図形の意味や性質について正しく理解することに課題があります。

(小・中学校共通の課題)

2については、無回答が非常に多かったことが課題だと認識しています。出題された累積度数の問題は学習指導要領の改訂で新たに追加された項目であることから、慣れていないことも無回答が多かった原因の1つだと考えられます。

## 中学校（数学）総括

昨年度に引き続き、数学的な処理や説明への対応に課題がみられます。

数学的な「思考力・判断力・表現力」に関する出題割合が高くなっており、数学の授業においても、言葉の意味を考えさせたり、何をどのように説明しようとしているのかを読み取らせたりする場面を設定することが大切だと考えています。

例えば、問題3にある平面を決定する問題では、「平面が1つに決まる」とはどのような状態をいうのか、どうすればそのような状態を作り出せるのかと考える場面を設定することで、単なる知識の習得が、実感を伴った理解へと変わっていきます。その上で、カメラの三脚など実生活に即した例を学ぶことで、生活に根差した知識としての定着が図れます。

加えて、授業の中で、1人1台タブレット端末を使って説明したり、考えを共有する場面を多く設定することで、「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実を図っていきます。



## 定着傾向がみられる資質・能力

- 1 情報源や情報の量がそれほど多くなければ、内容を正確に聞き取ることができます。
- 2 情報の量が増えても選択肢が用意されていれば、適切なものを選ぶことができます。

## 課題があると考えられる資質・能力

- 1 表現領域の「書くこと」に課題があります。
  - ・「書くこと」の無回答率は「聞くこと」「読むこと」に比べて高くなっています。限られた時間の中で自分の考えをまとめて表現すること、特に社会的な話題に課題が見られます。
  - ・理由を説明したり、相手に尋ねたりといった状況に合わせて正しい文法を用いて表現することに課題が見られます。
- 2 資料からの情報処理をしながら「読むこと」に課題があります。
  - ・図やグラフなどの資料を参照ながら、複数の段落がある比較的長い文章を読んで理解することに課題が見られます。特に社会的な話題に関して苦手意識があると考えられえます。
- 3 状況や会話の流れを考慮して「聞くこと」に課題があります。
  - ・「聞くこと」は、国や県と比べると比較的正答率が高いが、到達度でいくと課題が見られます。今回は「the bigger one」という英語は聞き取れているが、“one”を代名詞としてではなく、数字として捉えた誤答が多く見られました。

## 中学校（英語）総括

国語と同様に「書くこと」については、無回答率も高く、生徒が苦手意識を持っていることがうかがえます。

「書くこと」への抵抗感を払拭できるように、授業の中で最初から英語でまとまりのある文章を書くのではなく、「話す・聞く」場面を体験した上で、聞き取ったこと、話したことについて書くという学習活動を設定する機会を増やしていきます。

即興性を求められる状況にも対応できるように、デジタル教科書などICT機器を活用し、繰り返し聞いたり、発音したりする活動に取り組むとともに、A L Tとの「やりとり」を通して、自分の考えや気持ちを適切に表現できる英語力育成を推進していきます。

図やグラフ、表などの資料の情報を活用する力が今後さらに必要とされていくことから、それに対応した問題に取り組むとともに、資料を提示しながら自分の考えを発表する活動を取り入れていきます。併せて、社会的な話題について話したり、読んだりする機会を増やしていきます。



## 今 後 に 向 け て

今年度の調査結果分析から、朝来市の児童生徒の学力については、基礎的・基本的な学力は小・中学校とも概ね定着していると考えられます。

しかし、課題とされる資質・能力については、その多くがここ数年同じであり、改善されていない状況が見受けられます。

本市では、「小小連携推進事業」や中学校区ごとの「小中連携推進事業」を実施して実践の共有と系統化を図るとともに、各校で同調査を分析し、抱える課題とその課題解決に向けた取組を協議し、学習状況の改善や教員の指導力の向上を図り、子どもたちの学習意欲や学力向上に取り組んでいます。

また、平成26年度から取り組んでいる「授業のユニバーサルデザイン化モデル研究事業」においては、「授業づくりのユニバーサルデザイン化事業」として進化させ、児童一人一人のつますきに依拠しての指導と1人1台の1人1台タブレット端末の活用を組み合わせることで「個別最適な学び」の実現を図っています。

今後も、学校運営協議会をはじめ地域の方々と協働して、朝来市の子どもたちが「分かる喜び」「できる喜び」を実感できる学校教育活動に取り組んでいきます。

お問い合わせ先 朝来市教育委員会  
学校教育課 TEL 672-4930

